

『甲斐市民対話集会』会議録

日時：平成23年11月18日（金）午後7時～9時30分

会場：甲斐市役所新館2階防災対策室

参加者：古村区、上篠原区、新居区、仲新居区の市民50人

対応者：保坂市長、小田切副市長

テーマ担当者：花形建設産業部長、米山建設課長、武川都市計画課長、
丸山まちづくり推進係長

事務局：小宮山企画政策部長、土屋秘書政策課長、石合総合政策係長、石原、小澤

1、開会（趣旨説明）

〔司会：土屋秘書政策課長〕

定刻となりました。対話集会の開催にあたり、相互にあいさつを交わしたいと思います。ご起立ください。皆さん、こんばんは。ご着席ください。

甲斐市民対話集会へのご参加ご苦労様です。本日の司会進行を務めます秘書政策課長の土屋です。よろしくお願いいたします。

市民対話集会は、市民の市政参加による協働のまちづくりを推進する事業として、第1次甲斐市総合計画及び第2次甲斐市行政改革大綱に位置付けられています。

今年度からの新たな取り組みで、本日が市民対話集会の第1回目の開催となります。

今回の実施にあたり市内全自治会に案内。本日の古村区、上篠原区、新居区、仲新居区の4自治会で合同での開催の希望を頂きました。

本日のテーマは、『都市計画街路 田富町敷島線の整備について』と『政策体系別に見る今年度の主要事業』の2つであります。

参加された皆様と有意義な意見交換を行って、今後の市政推進の糧としていきます。

市民対話集会開催の背景、目的等の詳細については資料を参照願います。

本日の集会の所要時間は、概ね90分程度、8時30分を目途として進行します。

2、市長あいさつ

〔保坂市長〕

お仕事の後お忙しい中ご参集くださいますありがとうございます。

今晚の甲斐市民対話集会は、市としては初めての取り組みで、市民との協働を目的として本年度始まった事業です。

11の小学校区単位で参画していただくことで呼び掛けをして、篠原地区の4つの自治会の役員さん方が率先してこの事業に参画をしていただきました。

本日は、都市計画街路 田富町敷島線の整備についてと市の主要事業についてを説明します。

本日のような直接対話ということで、ご意見をいただけることうれしいことであり

ます。内容が街路のことなどで、担当する部長、課長が出席して取り組んでいきます。

3、出席職員紹介

(上記対応者の紹介)

4、対話（テーマの説明及び意見交換）

〔司会〕

本日皆様方のご質問にも可能な限りご説明ができるようにと思っておりますが、全てこの場でお答えできないこともあるのでご容赦願います。

都市計画街路 田富町敷島線の整備について、都市計画課から事業概要の説明をします。

①都市計画街路 田富町敷島線の整備について

〔都市計画課長〕

(スライド及び配布資料により説明)

- ・都市計画決定の経緯説明
- ・今回の変更箇所（交差点部に右折車線を付加、道路構造令に準拠した全幅員 16mを 17mに変更。国道 20 号交差点部は左折車線等の付加、全幅員 16mを 20mないし 23mに変更）。
- ・整備スケジュールについて（富竹工区 H22～32、Ⅰ期 H22～32（国道 20 号から国道 52 号）、Ⅱ期 H24～32（篠原区画整理から国道 20 号）
- ・国道 20 号交差点部の説明
- ・関係機関との協議経過、地域への説明経過
 - 第 1 回住民説明会など H22. 10. 14～
 - 第 2 回地元説明会など H23. 4. 21～
 - 第 3 回説明会「富竹工区」(名取、富竹新田 1. 2 区 H23. 7. 26。古村、新居区 H23. 7. 27)
 - 都市計画変更に係わる素案の縦覧 H23. 8. 4～8. 18
 - 公聴会 H23. 8. 30（公述人 11 人）
 - 甲府都市計画道路の変更案の縦覧期間 H23. 11. 7～11. 21
- ・10 月 28 日の県及び交通規制課の見解の説明
 - 地域からの要望が強い市道を含めた 6 差路交差点を市でも強く県に要望してきた
 - 県は、道路法（29 条、30 条）、道路構造令（27 条）に基づき、5 以上交差できないことから、現在縦覧を行っている都市計画案を基に計画を定めていきたい旨の報告を受けている

〔司会〕

今の内容についてご質問等がございましたら挙手をお願いします。

〔発言 A〕

全国的に6差路、8差路はある。県に質問しても答えてくれない。無い訳がない。

5差路以上はだめだと法令が変わったと、いつ変わったのか、今日始めて聞いた。毎回の説明会に出ているが、そういう説明は一回も無い。安全、安心は誰しも望む。

せっかく市道が、山県大式学問通りと命名して、さあこれからという時にこういう話が沸いてきた。

それからもう一点、公述人11人が非常によいご意見を述べていて、その旨を尊重しながら持ち帰って検討すると、県が言ったにも係わらず、全然検討した余地がない。これについて市当局はどのように考えているのか説明を聞かせていただきたい。

〔司会〕

5差路の法令の件、公述人の意見の件について、説明願います。

〔都市計画課長〕

道路構造令については、昭和45年に施行されており、内容的にはその当時からの変更はありません。

先日の公聴会の公述人の結果については、県のホームページで公開されています。

〔発言A〕

公開しただけでなしに、それに対する県としての動きが我々には全然伝わってこない。

〔司会〕

県で公開している中身は掴めてますか。

〔まちづくり推進係長〕

先日11人の方が公述人ということでご意見を頂きました。内容については、県の見解として現在県ホームページで公表されています。

一つとして、『新しい県道ができるのに、国道20号交差点で市道を封鎖しないで欲しい』という意見に対し、県の見解は、『当該交差点については、平面6枝交差点など様々な案について検討・協議を実施しましたが、円滑な交通処理と安全性確保のためには市道富竹新田上八幡線の自動車の出入りを閉鎖し、平面4枝交差点にする必要があります。これに伴う市道の付け替え等の機能補償の計画については、今後、事業を進める中で関係機関との協議や地域の皆様のご意見を伺いながら検討して参ります』という見解で、各11の質問に対して、現在県として見解を公表しています。

都市計画の案として本日皆様に説明した内容を現在縦覧していて、縦覧に対する意見が出た場合についても見解を示します。その後山梨県の都市計画審議会で、公述人の方、また縦覧で意見を出された方の内容について、県の見解をお話することとなります。

〔司会〕

いかがでしょうか。ただいま担当から説明がありました。

〔発言B〕

県の最初の説明だと、歩道橋を設置するとのことでした。

今現在設置してある歩道橋の利用者はほとんどなく、みんな道路を横断している。

これから少子高齢化になる。竜王駅の東側の新しい道路のように、年寄りがスムーズに行き来できる道を作ってくれないとやさしい安全な道路だとは言えない。急勾配な歩道橋を昇り降りするのは非常に危険で怖い。

近所に住んでいる人達が、作られていい道ができてよかったなと思う道路にしてもらいたい。

市でも強力に県にアタックしてもらいたい。

〔司会〕

今のご意見に対していかがですか。

〔都市計画課長〕

前回の県の回答は、地下形式については、防犯上、また排水処理上好ましくないことから歩道橋を設置をしたいという案が出されました。その後、話をする中で地下道については検討したいという回答は頂いております。

〔市長〕

前段の6差路について、消防署の所も6差路の様になっており、こちらも時間的な配分をできるのだからいいのではないかとということでこちらも調査させたり、市でも調査をしたりしました。

やはり時間的な配分や、学問通りも日に9千台と比較しても交通量が多い。

6差路の箇所も県内で何箇所もあると指摘しましたが、この部分については無理だということでありました。

バイパスをくぐって行ける様にといいことですが、構造上作れるかどうかは検討を深めます。下水道本管が入っていることも問題となります。

〔発言B〕

下水道本管は地下8m位の所にあり、私たちは8mも掘らなくていいから6mでいいから通してくれと言っているが、全然改善の余地がない。

〔市長〕

6mとしてもかなり深いもので、緩やかにするにはかなり遠くから傾斜をつけてこなければならないという工法であります。ここはまだ検討の余地があるかと思いますが、厳しく指摘をされている項目でもあります。

〔発言C〕

現状は9千台だが、新道ができれば3分の1になる。現状より通らないと思います。

〔市長〕

今度は、そちらの新しい広い道を通ってもらうような安全な方法で行くこととなります。

〔発言C〕

一番やってもらいたいのは立体です。立体を作ってもらえば何も文句言いません。

あそこは全国的にもありがたい病院通りじゃないですか。甲斐市でも本当に誇れる通りだと思います。これは止めた方がいいと思います。

〔市長〕

昨年からこの話が出ていましたので、いずれにしても6差路平面交差の要望は何回もしておりました。

学問通りと名付けて、明治天皇に言われた参道を止めてしまうのはだめと言いましたが、なかなか厳しい判断が続いてきて今日に至っているということあります。

これからも議論の余地はあろうと思いますけれども、方向的にはただいま説明した状況です。

それから立体にするということについては、都市計画街路決定をして、16mを17mとか、23mにするということ、これをまた立体にするということだと、また広げなければならないということで、周辺の地権者とはまた話が変わってくるという状況もあります。

〔発言C〕

病院関係の方から異論はないのですか。

〔都市計画課長〕

病院関係の方の意見については、県に要望書を提出しており、この前の公聴会においても公述人として意見を述べており、通行止めは困るという意見は出しております。

〔司会〕

この意見は県の方に伝わっているということですね。

〔発言D〕

富竹工区から行うという説明ですが、現実問題として、竜王中学校前の交差点がすごく混んでいます。それを解消する一つ的手段として、玉幡の方からあの辺を通る半分以上が出来上がっている道があるわけですね。なんであれを最後にもってくるのか明確な根拠を教えてください。分からなかったら県に確認してもらいたい。

〔司会〕

区画整理をして通れている部分がある道路の所からその先をどうして優先しないのかという県の見解がありますか。

〔都市計画課長〕

県は事業着手の順番については、現状の交通状況、将来の共用計画を考慮して判断するという説明であります。事業計画の中で説明いたしましたが、現在富竹工区1区が事業認可を得て事業を進めています。今後事業の進捗状況また、予算の関係等を見ながら国道20号から南側については、状況を見ながら進めていきたいという説明をされてきたところであります。県としては、最終は平成32年の全体供用を目標に進めていきたいという考えであります。

〔発言D〕

市では、敷島から20号へ来る車が非常に多いと、逆に反対側から20号に出てくる車が多いと、どれくらいの比率か調べたことがあるんですか。たとえば敷島から来る車がどうしても20号に行かなければならない車かどうかも分からないので、ただ敷島竜王線がなんぼか多いということでは話にならない。

〔司会〕

交通量調査の数字はありますか。

〔まちづくり推進係長〕

計画でいきますと、田富町敷島線の北側、敷島方面からは日量1万5千台、南側については1万2千2百台ということで、北側からの交通が多いと先日の説明会でも県が公表しています。

〔司会〕

敷島の方から来る車が多いということで3千台位の違いだと。これが県の交通量調査の答えだということでもいいですね。

〔市長〕

竜王中学校のバックネットの所も大変迷惑をかけている状況になっており、一年位前から検討しています。学校のバックネットも外してトイレもどかしてグラウンドの方へ道を付けた方が真っ直ぐなるということでしたが、学校側で野球するとどうしても校舎のまで来てしまうということで、グラウンドは狭くできないという状況で頓挫しましたが、昨日の時点で図面がいくつか出ました。今度はバックネットに関係なく、南側に貸家があり、そちら側に振っていくという図面も出てきて、これらによって地権者をお願いをしていくという段取りで進む予定です。

〔司会〕

竜王中学校の所の交差点ですね。その改良の計画も今進められているところで、図面も作成したり、県との協議も進んでいるということです。

〔発言E〕

平成のこの時代に、大きな幹線道路の20号を平面交差するということはどう考え

ても将来的に、都市計画的にも非常に不利になる計画だと思います。

地権者とのお話がと先ほど市長からも説明がありましたが、そういう理由で立体交差を諦めてもいいものかと思うのですが。交通渋滞も環境問題、単に車のアイドリングを助長するようなものですから、ぜひ見直してもらいたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔都市計画課長〕

立体交差については、先ほど市長からも説明をさせていただきましたが、立体交差にするためには、沿道の方々のまず建築確認についてなどの建て直しするとかが必要となります。そうなる場合に国道立体交差の他に側道を付けなければならない。現在の道路よりさらに用地を確保しなければならないという必要があります。

また、立体交差部分が壁になりますので、その地域の方々が分断されたり、日照の被害等も出てくるので、今の段階ではアンダーとオーバーの検討はされたけれども、県では今計画している平面交差で行いたいということであります。

〔発言E〕

今この時代に大きな幹線道路で平面交差なんて無いですよ。我々若い世代に将来的に甲斐市がとんでもない変な場所になってしまう。車も通りづらいし、県に要望は出していてくれていると思うのですが、こんな所はいらない。

〔発言D〕

一ついいですか。甲府バイパスを作る関係で、非常に混んでいるDポットの所の交差点がありますよね。あそこは地元から大反対で平面交差にしましたが、あれは立体交差いくという当初計画で、今になってみるとあそこは立体にすべきだった交差点があるんですよ。やはりここは絶対立体交差にしていた方が、甲斐市の将来像を考えた場合も、絶対立体交差にしたほうが良いと思います。

〔司会〕

皆さんから立体をとという意見がありましたが、県では都市計画の決定の話とそれから周辺への影響、日照の問題とか、予算のことも言っているかと思いますが、そういう論点から県では考えた末に、今の交通止めを含む計画で行かせていただきたいということが現実なんですね。

〔発言A〕

工法を考えれば壁にならない。毎回壁になるとか、あるいは説明会に入った時点で県の方は一向に話を聞こうとせず、全部平面交差で話をどんどん進める。それは壁になるとか、これからまた始めからやらなければならないから大変だとか、そういったことしか説明しない訳ですね。工法を変えれば壁にはならない。コンクリートでやろうと思うから壁になる。

〔司会〕

工法を変えればという話のことはいかがですか。

〔まちづくり推進係長〕

毎回同じことの繰り返しになってしまいますが、我々も皆様のご意見を聞きながら、国道の立体、県道がまたぐもの、市道がまたぐもの、地下道はどうなのかということをも全て山梨県に概略設計をお願いし、皆様に発表しているところであります。

共通点が、必ず一つのもので立体であっても、新たな交差点、副道が出ますので、県道が国道をオーバーで行った場合、周りの方々のために昇る道路の脇に、竜王のバイパスを見てもらえば分かりますが、副道が付いています。その副道がまた新たな交差点を招くことで、結局6差路になってしまう。そうすると行き止まりの副道になってしまう。このようにただオーバーだけならいいのですけれども、オーバーにするため、地下にするためには隣接する、周りの方の道路を確保してあげるためには、その副道が交差点で6差路になってしまうということで、山梨県は、交通量から言っても平面的なものがよろしいのではないかと我々に説明されてきたものです。

ご理解いただきたいのは、国道、県道、市道の立体化、上に上がるもの、地下に潜るものというのは我々も一緒に確認してきました。結論的には最終的に市長を含めなんとか6差路でということと要望を挙げたのですが、道路法及び道路構造令の現在の法令に基づいて、周辺の渋滞も複数の交差が原因という中で今の4差路を示されたところであります。

〔発言E〕

今の論点がそもそもおかしい。同じはずがない。立体にすればメインの通りは信号がなくて済むのだからスムーズに車が流れる訳です。それが一番の問題だと思います。周辺に道路ができて交差点ができるのは当たり前である。

〔まちづくり推進係長〕

メインは1本上で、今度側道は1本の両サイドに付く訳です。横断しているところに信号が4つ付いてしまうのです。

〔発言E〕

要はメインの通りをスムーズに流せということです。なんでそれができないのか、できないはずがない。ただお金が安く済むだけという論点にしか聞こえない。甲斐市がこんな道路でいいのかと不思議でしょうがない。

〔まちづくり推進係長〕

徳行の立体を見てもらうと分かると思いますが、上を越えても副道のために信号が付いてしまう。この路線については、交通量が竜王の交差点のように、四ツ谷、富竹新田方面から出てくる交通量であればよいが、現在9千台、3分の1となっても3千台の車が通るという中で信号時間を処理しても、幹線の国道または県道の渋滞を招く

ので、公安委員会については、法令通りの4差路でなんとか進めていきたいという説明ですのでご理解願いたいと思います。

〔発言E〕

ただ押し付けにしか聞こえません。全く納得できない、家は何軒もあると言ったけれども、何軒もないでしょ。誰が考えたって不便になりますよ。

〔市長〕

バイパスを立体にということでは2車線でいいんじゃないかと、こんな広いの作らないで、細い立体を作ればいいんじゃないかということも言ったけれども、なかなかいい返事はもらえない。

〔発言C〕

補償してもらおうのですね。病院でもなんでもみんな移転しますから。今の立地条件でみんな来てますから。この通りは補償してやれば甲斐市なんか居なくて、みんなどこかに移転しますよ。

〔司会〕

補償の問題が出てますけれども、この他問題で聞いてみたいことはありますか。

〔発言F〕

過去の説明会には全て参加しているが、要は6差路が無しという方向で思案しているのか、ということが一つ。そうであるならば6差路で市道を全面的に止めるのではなくて、6差路ありきという中で、地元としても止められると都合が悪いし、すぐ近くで店舗を張って営業しているところもありまして、また概ねは道路を閉鎖するということになる、当然お客さんも少なくなる、廃業しなければならないということも考えられる面もあります。そういうことで、素人考えだけでも6差路ということで、たとえば信号を市道の方の間隔を短くしてでも6差路はどうかと思います。確認はしていただいているのかどうかということも含めてお願いしたいと思います。

〔司会〕

信号の時間の調整によりということですね。その辺について何か見解はありますか。

〔まちづくり推進係長〕

国道20号の事業施工者の県として、皆さんから頂いた意見の中で今出ているような形で見解が示されています。山県神社北交差点における市道の交通規制についてということで、4差にした場合は朝のピーク時の7時から8時における渋滞は縮減し、交通台数で検討したところ生じないという検討結果が出ております。しかし6差路とした場合、国道20号から東側からの右折車で約20m、また新たに計画する田富町敷島線の敷島側からの直進及び左折する車が100mの渋滞が生じてしまうという予測結果が出ています。

また、信号のサイクルを交通量の多い所の自動車をさばかなければならないので、20号線の青色を62秒、黄色を4秒、また右折の青を18秒、黄色を3秒、赤3秒。計画道路の青色を39秒など、できる限り最小限に設定した状態でも、この結果が出ているということも、県が示す4差路の計画に至っている理由であります。

〔司会〕

今6差路で信号処理した場合に百秒以上掛かるということになりますよと、県が言っている訳ですね。

〔まちづくり推進係長〕

車の速度ですけれども、朝のピーク時に4差路ではなく、6差路にすると、国道20号が32キロから約27キロに下がってしまう、計画している田富町敷島線の動きについても22キロから18キロまで低下してしまうということで渋滞を招くんじゃないかと、この渋滞を軽減するために、さらに県では計画道路の敷島側から来る計画道路に右左折レーンの長さを増やして解析をしてみました、左折レーンの渋滞は解消しますが、どうしても直進レーンが70mの渋滞ができてしまうということで、右折レーンや左折レーンを増やしても渋滞は短くなりますが、走行速度については変わらなかったという結果が出ております。

〔発言G〕

何回も説明会を聞いているんですけども、全然結局何も考えてもらえていないんだというのが正直な感想です。たぶん皆さんもそう思っていると思います。

先日の公聴会の時に質問して一応返答を頂きましたが、分からないところがあるのでそれだけお伺いします。

6差路でたとえばピーク時に交通渋滞ができるということは良くないことだと思うので、時間制で閉じることはできないかと質問させていただきましたが、回答としてはできませんという回答でありました。どうしてできないのか分からないが、今の時代に各信号機の時間を設定して何時から進入禁止にするとか、それくらいのはできるのではないかと思います、それであればラッシュアワーの時は地域も我慢するけれども、それ以外の時間帯は6差路のままっていうことはできないものかと思えます。甲斐市は環境のいいところで、医療関係の設備が整っていていい地域だと思います。ここを6差路にしないということになると、道路が死んじゃうと思って、土地も下がるということで、時間制で6差路というのができないものかとお聞きしたい。

〔都市計画課長〕

今の時間制の話については、まだ市で県から細かい内容を聞いておりませんので確認をしてお答えしたいと思います。

〔司会〕

県からその理由が届いてないということですね。県から理由をもらってお知らせす

るということで回答をしたいと思います。

〔発言H〕

一番肝心な公述人 11 人の方のお話が、簡単に一言で道路を封鎖しないでくださいという話でありましたが、あと 10 人はどういう内容なのか、県が先頭だったということではなくて、県の検討されている内容を市がどう把握して、市の言葉として、今どうしようとしているのか。

それから検討事項は日付を入れてもらいたい。いつまでに検討するのか。検討内容が 100%とは言わないが、そういう意識を入れてもらわないと良く分からない。

また、いろいろ意見が出ていると思うが、意見が一つに集約されていると思います。11 名の方は何度も聞いて、最終的にこうして欲しいというのが出ていると思う。ホームページ見てくださいと冷たいことを言わないで、全部公表して、県はこうだけれども、市はこうだと。それといつまでに県の回答があるから、これを踏まえて市としてこうしますとかそういう話をしてもらいたい。県がということにならないようお願いしたい。

市民対話集会ですから、法令や規則を並べても理解できない、何故そうなるのかということも法令を理解して質問者に対して分かるように回答してやらなければならない。相手が理解しないと意味がない。

〔まちづくり推進係長〕

先般の公聴会において、11 名の公述人の意見がありました。今、県のホームページにおいて、公述要旨と見解ということで公表されています。

(県ホームページ掲載されている公述要旨と見解を発表。)

〔発言H〕

県の回答を受けて、市としてどうなのか、市の言葉として話をしてもらいたい。先ほどの状況を見ながら検討するって、いつまでに検討するのか、12 月なのか、来年の 1 月なのか、そうしなければ判断がつかない。都市計画の審議に掛けるということであるけれども、早く片付くようお願いしたい。

〔司会〕

理解ができない所は理解を深めることが必要で、来年 3 月までに県の都市計画審議会が開かれるので、それまでに納得できる説明を県に求めて、配れるようなことが必要かと思います。当事者や一部の方は分かっているがホームページだけでは冷たいなという意見であります。

〔まちづくり推進係長〕

今朗読したのは、8 月に行いました公聴会の意見に対する県の見解です。現在は、素案を基に 21 日まで縦覧を行っています。寄せられた意見について、今後県で見解を示す段階です。

〔発言 I〕

当初の時間も過ぎましたし、まだこのテーマ以外に意見を言いたくて来ている方もいると思うので、一番肝心なのはこの事業施工者は県で、あまりやり合うのも意味がないような気がします。テーマの選び方もうまくなかったような気もしますが、これだけ意見が出て、これはこれでいろいろ意見交換ができてよかったのですけれども、時間的なものもありますので、今後どのように進めるのか説明をお願いします。

〔司会〕

開会前に説明いたしました予定時刻も過ぎております。どうしても皆様の意見を頂いた中で、理解を求めることが足りてないとか、県の説明もまだまだ不足があるのではないかという中で、縦覧期間もあり、都市計画決定に向けて進めていますが、ここで担当からももう少し皆様方に県の答えを理解してもらえらるような方向でお伝えするなど県の見解について、甲斐市が答えを出せないにしても、地域の皆様に理解してもらうことが大切だと思います。

〔都市計画課長〕

いろいろなご意見がありましたので、県で地元説明会をする折に公聴会の見解等も回答していただけるようにセッティングいたしますのでよろしくお願いいたします。

〔発言 E〕

この計画で甲斐市がどう損害をこうむるかとか、県が言っていることをそのまま説明しようとしている。甲斐市が何をしたいのか分からない。本当に地域の住んでいる人達のインフラが整っている状況を想像して、甲斐市がどうしていきたい、職員は甲斐市民を守るために何をして、どういうことを県に言っていくかという意見が全く無い。これでは対話にならない。根本的なところを考え直していただきたい。

〔司会〕

今回初めて集会を開催しまして、いろいろ至らない部分もありましたが、こうやって市民の皆様が討論を展開して、いろいろな理解やまだまだ説明が不足だとか分かりましたし、県でも甲斐市のためにやさしい道を作って将来のために考えてくださいよと、できるところは県に伝えて、返答ができるようにしたいと思います。

〔市長〕

対話集会ということですから、前段重要な問題を議論していただきました。大変ご意見を頂きました。私も責任者でありますから、聞いていくら県でやると言っても、これは都市計画街路で甲府の都市計画区域の中に入っている中で、基盤整備がされていて、45年あるいは50年初頭にこの絵が描かれていまして、その中でどう我々がいくかと、最近建てる方はここには3階建て以上は建てては困りますよ、道路ができずからということで建築確認を取っていると思うんです。

とにかくこの交差点に道ができるということは、第一に交通安全で事故が無事故で

あるべき交差点であって欲しいということと、まち全体と近隣のまちがお互いに、よりよい道路ができなければいけない。

たとえば竜王田中線がありますけれども、上篠原から本竜王を抜けて、四ツ谷の方から赤坂台を抜けて行くという計画があったけれども、上部の方は反対がありまして消えてしまっているということがある。

こういった基盤整備はまちには必要でありまして、そしてこの立体交差ということも、私も国母の交差点を見れば分かるよう、当初から言っております。ですが、いろいろ状況を見ていきますとこうはならんと今の状況なってきたておりまして、私自身皆様の意見も聞いてこれは大変なことだと、公述人もみんな6差路がいいと話聞いていますが、できるだけ早く幹線道路として仕上げていくということもまちの責任でありますから、十分意見を聞きながら、その都度県に言ったり、話をさせていただきま

すけれども大変です。全体的にまちというのはお互いに無理なところもあつたりしていつて、その中でもみんなが良くなって欲しいと、こういう願いを持って望んでいるところであります。まだまだ今日頂いた立体交差について如何かとか、時間差で交差点の信号をそういったことについても今後言っはいきますけれども、とにかく32年に向けてできるだけ早い時期に基盤整備ができていくということは、多くの方達に福祉をもたらすのではないかと考えております。

〔発言A〕

国道を止める、県道を止めるという話ではない。市道が止められる。市当局も真剣に考えていただいていると思いますが、より良い明るい甲斐市がこのまま続けられるようにぜひともよろしく願いいたします。

〔司会〕

本日のご意見については、担当から県に市の意向も伝えるということでご理解願いたいと思います。

続きまして、2点目として政策体系別に見る今年度の主要事業について説明させていただきます。

②政策体系別に見る今年度の主要事業

〔総合政策係長〕

(配布資料により説明)

〔司会〕

事業等についてご質問、ご意見等をお伺います。

〔発言J〕

だれもが利用しやすいやさしい道があるまちづくりの道路維持改良事業について

伺います。最近生活道路が経年劣化により陥没やひび割れなどしているが、最近行なった下水道の接続工事で、何年も経っていないのに、えんが切れている箇所が多すぎると思う。業者の問題もあると思うが、転圧がしっかりなされていないということで起こるのではないかと思います。業者にも指導してもらいたい。

〔建設産業部長〕

市内至る所で下水道工事を行っていますが、仮復旧の段階がございまして。仮復旧は1年か2年くらいおいてから本復旧をする工事の流れになってはいますが、そんなことで長く放置しすぎたということもございまして。今現在道路パトロールを毎日行っています。パトロールの中で発見した場合については、仮に復旧させていただいております。また、地元でもそのような場所を発見した場合については、お手数ですがご報告いただければ早急に工事をして参りたいと考えておりますのでご理解をお願いいたします。

〔発言J〕

次に安全で快適に暮らせるまちづくりの河川改修事業についてですが、老朽化した河川の改修は行っていただいておりますが、大雨が降ると古村区でも何箇所がオーバーフローしたり、水が溢れてきて、その都度土のうなどを積む状況ですけれども、昔は古村も田んぼがあったが、最近ではコンクリートになり水の逃げ場がないということの原因ではありますが、特に古村の下の方も大雨のときは水を飲み込めないということの中で、榎の水門を上げれば一旦は解消しますが、またこの下に行くともたそこで文句が出ると。そういうふうに繋がっていいって甲府市の方まで行っているような形であるが、甲斐市だけの問題ではなくて、もっと下の方から調査してもらわないと、その場だけでやっても解消しない気がします。広い目で確認していただいた中で改修をお願いいたします。水がオーバーフローするのは小さい問題ではないので検討していただきたいと思っております。

〔建設産業部長〕

おっしゃる通りです。古村地区に限らず竜王地区全体に関しまして都市化が進んだということで、前は田んぼがあり、降った雨が貯水池みたいな形で水が溜まってきまして、宅地化によりそれが浸透せず、道路や宅地に出てきたということで、最近のゲリラ豪雨等によって、氾濫する場所は市でも把握しております。常時改良は続けてきておりますが、甲斐市だけで対応できないものがございまして。

富竹新田の部分になるのですが、一部水量の影響調査を行いました。その結果、甲府市の部分の原因もあるということで、甲府市において水路を改修していただいているように話をしていますが、現状として進んでいません。いずれにしてもそういう箇所の改修は早めに行きたいと、そのためにも早急に調査をしていきたいと思っておりますのでご理解をお願いしたいと思います。

[発言K]

遅くまでありがとうございました。今回は田敷線のことだけかなと思ったのですが、こんな風にして今年度の主要事業を大変細かく、資料を基にして出してくださったのは良かったと思います。短期間でとても考えられないような状況がありまして、この次もこれをしていただければ、もう少し考える対応も出てくると思いますけれども、次の対話集会もこのような形で主要事業についてやってもらえるのか。これは要望です。

次に主要事業の資源リサイクル推進事業を見ていて、容器包装リサイクル法に基づく資源の再利用化は大事であると思いますが、ここでこれだけの費用を掛ける必要があるのかなと感じました。

[企画政策部長]

ただいま対話集会のあり方について、今回初めての試みでありまして、私達も市の主要事業ということでお示しさせていただきました。このような機会があれば市の主要事業については説明していきたいと考えております。

[総合政策係長]

資源リサイクル事業の中身ですけれども、収集を業者に委託する委託料が大部分を占めております。

5、まとめ

[司会]

その他よろしいでしょうか。

だいぶ時間も経過しておりますので、至らぬ進行があったことをお許し願いたいと思います。第1回目ということで不手際もありましたが、より皆さんに分かりやすく、丁寧な説明ができるように、道路の問題については、県の方にもしっかり働きかけるということで進めていくということでご理解をお願いしたいと思います。

6、閉会

[小田切副市長]

本日は、市民対話集会初めての試みでしたが、平日の夜、お仕事の終わった後の大変貴重な時間にこのように大勢の皆さんにお集まりいただきました。お礼を申し上げます。今日は田敷線の関係でいろいろなご意見、ご提言を頂きました。それらを参考に今後の甲斐市のまちづくりの参考に進めて参りたいと考えておりますので、今後とも皆様方のご協力をお願いいたしまして、閉会のあいさつとさせていただきます。本日は大変お疲れ様でございました。

閉会午後 9 時 30 分